

## 交通環境の変化による白山市内観光動向調査と観光誘客のための二次交通に関する調査研究

指導教員：金沢大学理工研究域環境デザイン学系 教授 高山純一，准教授 中山晶一郎  
金沢大学人間社会研究域人間科学系 教授 伊藤 悟  
金沢星稜大学経済学部一部 専任講師 堂下 恵

ゼミ参加メンバー：

- 【高山ゼミ】今村悠太(代表)，穴口智也，李家帥，楊 寅，井上卓也，遠藤紀彬，岡本裕也，中野晃太  
【伊藤ゼミ】府和正一郎，宮野あさ美，菊地陽介，上条隆志，山下由貴，田谷詩織，北澤実枝子，萩本郁美，保科早紀，河上紘栄，林美有紀，齋藤大樹，高島 朗，齋木章太，本山裕樹  
【堂下ゼミ】木島加奈枝，梅田達矢，柚木尾修平，赤川政樹，北口 桂，越田由希，橋本梨奈

### 調査研究成果要約

本研究では白山地域における観光動向実態調査により，観光客がどこから，どのような交通手段を使ってやって来るのか，また，どのような観光形態をとっているのかを明らかにし，観光振興計画策定のための基礎データとしたい。さらに，フィールドワーク等により，さらなる白山地域の観光客誘致手法について検討を行う。加えて，今回は合併により余裕ができた白山市内の遊休施設を利活用する合宿観光誘致の可能性についても調査を行う。

### 1.1 調査研究の背景と目的

現在，白山市では，2013年春供用開始予定の北陸自動車道の白山IC（インターチェンジ），2015年3月完成予定の北陸新幹線を控えており，今後の交通環境の大きな変化が予想されている。

東海北陸自動車道の全線開通により，特に，中京方面からの観光入込客数が金沢や富山，高岡，氷見等において増加したと言われている。白山地域や加賀地域においても，夏季期間中には白山スーパー林道を経由して観光に訪れる県外者が増加したと考えられ，その実態は明らかではない。さらに，上述の通り，白山地域における観光は季節によって大きく異なり，白山スーパー林道の通行可能期間と通行止め期間では，観光来場者の出発地が異なっている。

そこで，本研究では白山地域における観光動向実態調査を行い，観光客がどこから，どのような交通手段を使ってやって来るのか，また，どのような観光形態をとっているのかを明らかにし，観光振興計画策定のための基礎データとしたい。さらに，フィールドワークや文献調査等による研究活動を基にして，さらなる白山地域の観光客誘致手法について検討を行う。これに関連して，今回は合併により余裕ができた白山市内の遊休施設（スキー場施設，小中学校施設など）を利活用する合宿観光誘致の可能性についても調査したい。

### 1.2 白山市の概要

白山市は平成17年2月1日，1市2町5村（松任市，美川町，鶴来町，河内村，吉野谷村，鳥越村，尾口村，白峰村）の合併により誕生した。総面積は755.17km<sup>2</sup>であり，石川県全域の18%を占め，県内最大の広さである。また，地目別面積は，「宅地」が2.4%，「経営耕地」が5.8%，「林野」が73.5%となっており，全国でも降水量・降雪量の多い地域に属している。県都金沢市の南西部に位置し，白山国立公園や，県内最大の流域を誇る一級河川手取川，白砂青松の日本海など，山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域であり，海岸部から山間部まで，およそ2,700mの標高差がある。

## 2. 調査研究の内容及び成果

### 2.1 白山市への日帰り及び宿泊観光客を対象とした観光実態調査【高山ゼミ】

観光動向調査は、白山市への観光客を対象として白山市での観光行動の現状や意向を明らかにする目的で、以下の表 2.1.1 に示す項目についてアンケート調査を行った。

調査期間は 2009 年 7 月下旬より 2009 年 9 月末まで行い、アンケート調査票を旅館、博物館などに郵送し、施設利用者に配布してもらう方法、および調査員による直接配布により配布し、調査対象者にはアンケートを記入したうえで郵送により返送してもらう方法をとった。

#### (1) アンケート調査票の配布および回収状況 (2010/1/10 現在)

有効配布部数は配布依頼、直接配布がそれぞれ 1980 部、1398 部の計 3378 部であり、有効回収部数はそれぞれ 298 部、289 部の計 587 部である。回収率はそれぞれ 15.0%、20.7%、全体として 17.4%であった。

#### (2) グループの人数と関係及び旅行者の出身地

今回、得られた 587 の回答のうち、76%が 2~5 人のグループでの観光であった。また、そのうちの 63%が家族、16%が友人同士での旅行であり、家族構成としては 30 代~60 代までの夫婦や兄弟などが大多数を占め、幼児や高齢者を連れた家族は全体の 15%であった。旅行者の出身地は、日帰り観光客の 70%が石川県内からの観光、宿泊客の 89%が石川県外からの旅行であった。

#### (3) 観光客の交通手段

アンケートには、白山市まで及び白山市内での交通手段についての設問を設けた。ここでは、日帰りと宿泊で大きな差は見られず、回答者の 80%程度はマイカーによる移動であり、レンタカーの利用は、日帰り客及び宿泊客がそれぞれ 0%と 5%である。また、マイカーを用いる理由は「時間に縛られない」や「行き先を自由に選べる」といった回答が目立ち、行動の自由度を求めていることが伺える。

#### (4) 観光客が入手した情報

観光客は旅行に際して、地域の観光施設及び宿泊施設の情報をもっとも重要視しており、ついで交通施設や食事関連の情報を入手している(図 2.1.2)。交通施設の情報としては、目的地までの経路と周辺地図を最も重要視している。また、その入手手段としてはインターネットが 36%と最も多く、ついで雑誌が 24%、パンフレットが 17%である(図 2.1.3)。

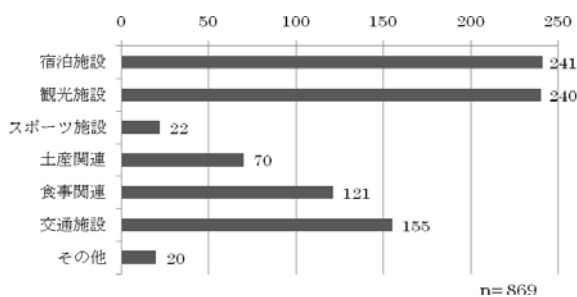


図 2.1.2 観光客が入手した情報

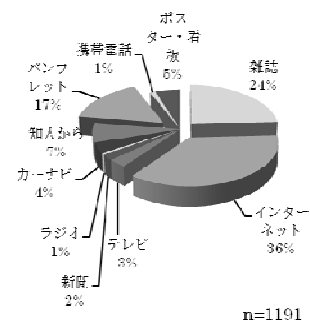


図 2.1.3 観光客の情報入手手段

#### (5) 白山市に求める交通システム

(3)で示したとおり、白山市への観光客は移動手段としてマイカーを用いており、他の交通システムは不要との声が非常に多いが、一方で、マイカー利用者の中にも観光バスやタクシーなどを求める声もある。(図 2.1.4)

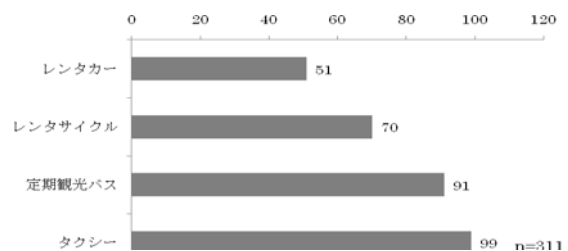


図 2.1.4 観光客が望む交通システム

## 2.2 白山地域における観光形態別おすすめ観光ルートの提案【伊藤ゼミ】

### (1) 調査研究の目的

本調査の目的は、インターネット等の情報の収集を通じて、観光ルートを提案するとともに、各観光施設までの交通手段、時刻表、所要時間、料金等を調査し、白山地域の観光ミニガイドの作成である。

### (2) 調査研究の流れ

まず、インターネット上での情報収集を行う前の準備として、地元事情に詳しい元高校教員（社会科地理担当）から、白山地域の概要に関する講義を受けるとともに、観光案内パンフレット等の資料提供を得て、基礎的・全般的な知識の習得・向上を図った。次に、本調査の主題であるインターネット上での情報収集を行った。具体的には学生（11名）それぞれが、同地域に関わって興味・感心をもてる事物を複数調査し、それらの内容についての理解を深め、同時に学生相互でそれらの情報交換も図った。

さらに、それらを巡回しうる観光ルートを学生一人一人が別個に作成した後、相互に比較しながら、観光ルートの内容充実と調整を図った。その結果、学生が作成した11の観光ルートを4つに統合することとした（それに応じて、学生も4グループに分けた）。その4つの観光ルートについて、当該グループごとに観光ミニガイドの作成を試みた。その際、実現可能なものとするために、各訪問先（観光施設）間の所用時間や距離を、時刻表や地図により確認し、一日のスケジュール提案も行うこととした。

### (3) 観光ルートの提案

---

#### ルート①「157号線を巡る旅～あなたはまだ本当の白山を知らない～」(周遊ドライブ型)

10:00 白山比咩神社→11:00 吉野工芸の里→11:30 一向一揆歴史館・道の駅「一向一揆の里」(昼食)  
→13:20 鳥越城跡・二曲城跡→14:20 ハーブの里「ミントレイノ」→15:45 瀬名温泉(入浴)

子どもからお年寄りまで全年齢の人が楽しめるので、家族連れやカップル、友達同士で白山市を訪れるのに最適なコースです。

---

#### ルート②「白山観光コース～パラグライダー体験&白山の自然を満喫、歴史をめぐる1日～」(周遊+体験型)

10:00 ハーブの里「ミントレイノ」→11:30 鳥越城跡・二曲城跡→12:35 道の駅「一向一揆の里」(昼食)  
→13:05 鳥越一向一揆歴史館→14:20 スカイ獅子吼(パラグライダー体験)→金沢

白山市の豊かな自然と郷土の歴史・文化に触れることのできるコースになっています。自然と触れ合いながら、日常生活では体験できないハングライダー体験などスカイスポーツを楽しむことで白山市の観光をより印象深いものにします。

---

#### ルート③「つるぎ自転車旅～風で感じる白山のまち」(サイクリング型)

10:19 野町駅→10:48 鶴来駅(自転車借用)→11:05 金劔宮・不動滝→11:45 パーク獅子吼(+スカイ獅子吼)  
→13:50 白山比咩神社→15:15 鶴来駅(自転車返却)→野町駅

観光に飽きたアナタ!最近運動不足なアナタ!節約したいアナタ!・・・見どころ満載の鶴来を自転車で巡りませんか?この旅なら肌で自然を感じながら、心も体もリフレッシュできます。

---

#### ルート④「見たい!知りたい!遊びたい! 白山の自然を満喫～親子で行く日帰り格安プラン」(家族慰安型)

10:00 白山比咩神社→10:45 石川県ふれあい昆虫館→12:00 獅子吼高原→15:10 松任 CGZ

白山近隣の家族連れが気軽に楽しみ、お手頃価格で白山の自然を満喫できます。四季折々の表情豊かな自然を、日帰り旅行でちょっとした休みに楽しんでみてはいかがでしょうか。

---

以上4つの観光コースを学生自らが体験するまでにはまだほとんど至っていないため、それは今後の課題として考えている。また、今回の作業に参加した学生はほとんどが白山地域についてあまり知識をもたない県外の出身であったため、かような学生によって作成されたという背景と、そこで活用されたネット情報がどのようなものであったかを踏まえて、今回提案された観光ルートをとらえることが、今後の白山地域の観光振興と発信について、より有意義になろうと考えられるわけである。

## 2.3 全国高等教育機関のサークルを対象とした合宿誘致の可能性調査【高山ゼミ】

### (1) 調査研究の概要

白山市では、全国の高等教育機関のサークル等を対象とした合宿助成金制度を施行しており、この制度が白山市における交流人口拡大への一つの足がかりになるのではないかと考えられる。そこで、全国の大学や高等専門学校等の部活動、サークル等を対象にアンケート調査を行い、定期的な実施されている合宿の実態を調査するとともに、合宿場所を選定する上で考慮する条件などを明らかにした。また、白山市に対する合宿意向を明らかにするとともに、白山市における合宿誘致策の提案を目的としている。

#### 白山市 合宿助成金制度「白山市大学合宿等誘致事業」の概要

学生が行うクラブ・サークル・ゼミ等の合宿で、白山市内の宿泊施設に延べ 50 人・泊以上※宿泊すると、大学生・短大生(構成員のうち白山市外に住所を有する者が 2/3 以上の団体)であれば 1 団体につき 50,000 円を助成する。ただし同一年度内 1 回に限る

※) 人・泊とは、人数×泊数の数を表し、例えば 25 人が 2 泊で 25 人×2 泊=50 人・泊となる

### (2) アンケート調査票の回収状況 (2010/01/07 現在)

アンケート調査票は全国の大学、高等専門学校に配布し、有効配布部数 5,980 部、有効回収部数 447 部となり、有効回収率は 7.47%であった。

### (3) アンケートの分析結果(一部のみ記載)

アンケート調査では、「合宿の現状把握(合宿に係る費用や交通手段など)」「合宿意向(合宿に必要な条件など)」「合宿助成金制度の認知状況」「部活動の属性」について、各サークルの代表者に回答して頂いた。

「白山市合宿助成金制度を知っていますか」という問に回答した団体のうち、助成金制度を知っていると回答したのはわずか 3%(13 団体)であり、制度が広く知られていない状況が明らかとなった(図-2.3.1)。また、制度を知っていると回答した 13 団体のうち、8 団体は石川県内の団体であった。

「白山市合宿助成金制度を利用したいと思いませんか」という問に回答した団体のうち、約 40%が「制度を利用したい」「制度について詳しく知りたい」と回答している。その反面、「特に制度の利用を考えない」と回答する団体が約 60%もあった。

「制度について詳しく知りたい」「特に制度に利用を考えない」と回答した団体(約 90%)に、白山市で合宿を行う際に問題点となる項目を 5 段階評価で聞いており、最も大きな問題点として挙げたのが「白山市までの移動が遠いため大変」「公共交通が非常に不便」の 2 項目であった(図-2.3.2)。

白山市での学生部活動・サークル等の合宿を誘致する場合、主要結節点(金沢駅や小松空港など)からの端末交通(公共交通)の利便性を高めるとともに、合宿助成金制度を大きく PR して全国的に認知度を高めることが重要となってくると考えられる(類似した助成金制度を施行している自治体は多く、上手な PR 方法を模索することが課題となってくる)。

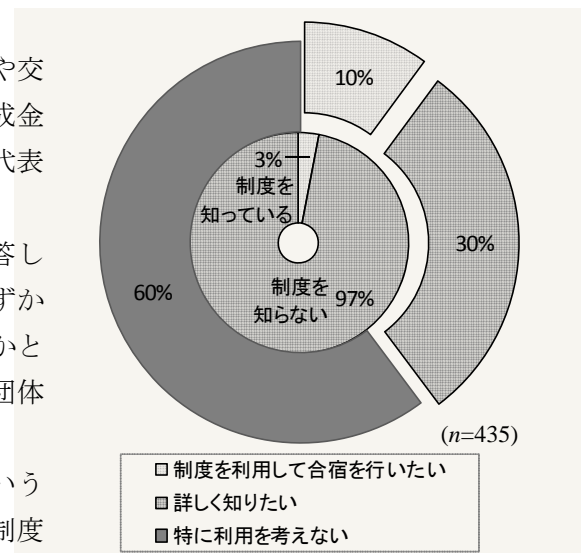


図-2.3.1 制度の認知状況と利用意向 ※ ( )内は標準偏差

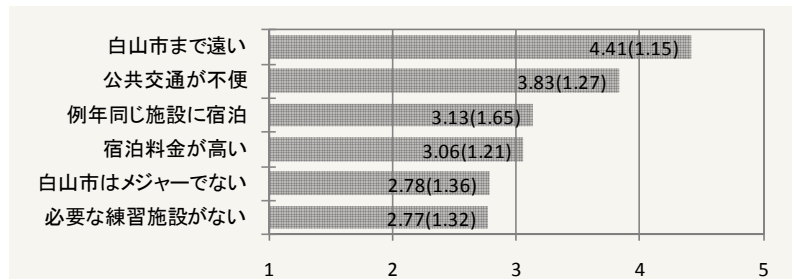


図-2.3.2 白山市で合宿を行う際の問題点 ※ ( )内は標準偏差

## 2.4 体験型・イベント観光と地域振興に関する調査【堂下ゼミ】

### (1) 調査研究の概要

本調査では白山市への観光誘客において重要だと考えられる体験型・イベント観光と地域振興についての研究の一環として、白山市が運営している「まるごと白山ファンクラブ」の活性化について調査を行った。同ファンクラブは白山をふるさとと思い愛する人々が集って、白山市の観光振興と交流の実現に寄与することを目的として設立された団体である。本調査では同ファンクラブの活性化に関する調査活動を行うことを通じて、体験型・イベント観光と地域振興について検討することにした。

### (2) 調査研究の成果

#### **【1】まるごと白山ファンクラブ協議会や同ファンクラブの企画イベントでの調査**

同組織に属する会員 250 人弱のうち、約 4 割が白山市の行政関係者、約 7 割が白山市住民、約 9 割が 50 歳以上であり、会員の属性が偏っていることが分かった。また、ファンクラブの運営は白山市役所が中心となって運営されており、例えば各種事業の提案は行政の担当者がおこない、各地域の関係者から成る協議会はそれを承認する形がとられている。この点について、協議会では行政担当者ではなく協議会構成員が企画や運営を携わるべきだという議論がされている。

さらに、主催イベントは年間 5 回程度実施されているが、総参加者数が 70 人程度と比較的少ない。調査対象イベント（2 プログラム）では、自家用車で集合場所まで行かなければならず、公共交通のみの使用でも参加できる工夫が必要だと考えられる。

#### **【2】「まるごと白山ファンクラブ」会員対象のアンケート調査**

同ファンクラブ会員に実施したアンケートの有効回答数は 119 であった。設問の 1 つで入会目的について尋ねたが、最も多かったのは「白山の PR」という回答で 21% だった。この回答をした者の多くは公務員であり、市外の人に白山のことを知ってもらう目的で入会したと考えられる。また、ファンクラブの利用目的・活用方法について、約 4 割が「白山を知る」ためにファンクラブを利用したいと答えている。会員の多くが白山市民であることを考慮すると、白山市を外部に PR すると同時に地域住民が広域合併によって成立した新たな「白山市」を知る媒体として利用しようと考えていることが示唆される。

その他、会員のファンクラブに対する思いを問うてみると、最も多かったのは対外に向けて白山をもっと PR してほしいという声であった。次にファンクラブ会員に向けたサービスの向上について、もっと会員向けに情報を発信してほしい、会員特典を充実してほしい、であった。

#### **【3】「まるごと白山ファンクラブ」スタッフブログの更新試行とアクセスデータ分析**

同ファンクラブ・スタッフブログ更新試行は 8 月初旬から開始し、アクセスデータの収集は 10 月初旬から行った。ここでの成果は 10-12 月の約 2 ヶ月間、アクセス数のデータ分析による。

まず、アクセスの概要を検討してみると、平均アクセス数は、平日 46、土日 23 となっており、平日のアクセスが多い。さらに時間毎のアクセスをみてみると、午前 10 時台が最も多く、次に午後 5 時が多い。加えて、白山市役所ホームページからのリンクが約 5 割であった。

次に、更新による効果について、更新前後 24 時間以内のアクセスを検討してみると、更新前と比べて更新後のアクセスが約 2 倍に増えていることから、更新による効果があったと考えられる。加えて、訪問回数をみてみると週 1-2 回のペースで閲覧するリピーターが 1 割強おり、他方、前回訪問から約 1 日後にアクセスするケースが 3 割近くある。これらは、継続した更新が一定数の人々の関心を引いていることを示唆している。

### 3. 調査研究に基づく提言

#### 3.1 白山市への日帰り及び宿泊観光客を対象とした観光実態調査に基づく提言【高山ゼミ】

本調査において、観光客の80%程度がマイカーにより白山市を訪れていることが分かった。したがって、白山市における観光誘客のための交通施策としては、マイカー利用客への配慮が非常に重要である。

白山市への観光客は、観光施設やそこまでの経路およびその周辺地図情報を求めており、インターネットや現地のパンフレットや看板などにより情報提供を行っていくことも重要である。

また、本調査において、白山市への観光客の6割強は30代から60代の幼児も高齢者もつれていない家族(兄弟や夫婦)および友人同士であるということが分かった。白山市における観光誘客による地域振興のためには、こうした世代・グループが関心を示すような観光内容の充実およびインターネットなどによるPRが重要である。

#### 3.2 白山地域における観光形態別おすすめ観光ルート検討に基づく提案【伊藤ゼミ】

インターネット等の情報の収集を通じて、観光ルートの提案を行った。今後の白山市における観光誘客のためには、旅行者のグループや旅行日程など観光客のニーズに応じた観光ルートの提案とインターネットなどによる積極的なPRが重要である。

#### 3.3 全国高等教育機関のサークルを対象とした合宿誘致の可能性調査に基づく提言【高山ゼミ】

白山市の最も大きな問題点として「白山市までの移動が遠いため大変」「公共交通が非常に不便」の2項目が挙げられた。白山市での学生部活動・サークル等の合宿を誘致する場合、主要結節点(金沢駅や小松空港など)からの端末交通(公共交通)の利便性を高めるとともに、合宿助成金制度を大きくPRして全国的に認知度を高めることが重要となってくると考えられる。

類似した助成金制度を施行している自治体は多く、上手なPR方法を模索することが重要な課題となってくる。

#### 3.4 体験型・イベント観光と地域振興に関する調査に基づく提言【堂本ゼミ】

白山市への観光誘客のためには、市民と来訪者が直接コミュニケーションでき、密な人間関係を構築することができる体験型・イベント観光を推進していくことが重要である。「まるごと白山ファンクラブ」は現時点では会員が白山市住民(特に行政関係者)に偏っているが、観光振興に意欲的な市民が多く会員登録しており、市外の会員を増やすことができれば一気に観光交流を活性化させる可能性がある。

今後、同組織が継続した体験型・イベント観光を実施していく中核を担うためには、対外的PRの強化と、新たな会員層を見込んだイベントの企画・運営方法の見直しが必要である。会員を増加させるためのPR方法については、ファンクラブ・スタッフブログの更新試行によって情報発信効果があることは明確になったので、インターネットを上手く活用することが重要であろう。

#### 3.5 提言のまとめ

以上、本調査から、白山市への観光客の世代やグループ構成、交通手段などが明らかとなった。また、合宿助成制度などの認知度が低く、白山市のPRに課題が見えた。今後、この調査結果を踏まえた交通施設の整備や積極的なPR活動が重要である。

#### 謝辞

白山麓地域の観光実態に関するデータを提供していただいた白山市役所の皆様、アンケート調査にご協力いただいた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### 参考文献

石川県観光交流局交流政策課：統計からみた石川県の観光，2007